



# 放射線相談室だより ~12月号(36号)~

平成29年12月15日

1

## 食品検査の研修に参加しました！



11月27日に広島市の公民館1階にある「食品放射能簡易分析センター」の測定員の方対象の研修会に参加してきました。

講師の先生は「原子力安全研究協会研究参与・医療放射線防護連絡協議会 総務理事 菊地 透先生」です。



今日は食品放射能検査についてお話をしたいと思います。  
例えば、1kgあたり200ベクレル検出された松茸を1本(100g)食べると内部被ばく線量はどのくらいになるのでしょうか。では、下の資料を見てみましょう。

### 松茸200Bq/kgと放射性セシウムが検出された食材を食べると



放射性セシウム137の内部被ばく線量への換算係数  
大人:0.000013mSv  
10歳:0.00001mSv

放射性セシウム濃度と食べる量(摂取量)から内部被ばく線量評価

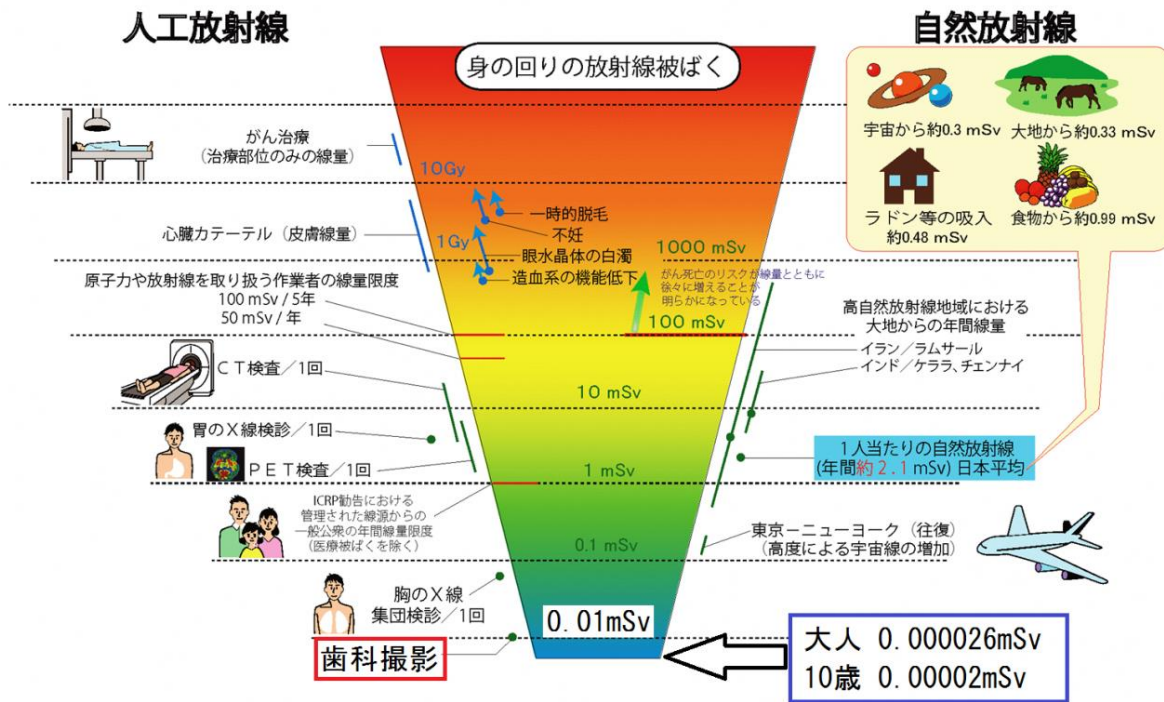
この松茸1本(100g)を1回食べると被ばく線量は  
大人:0.00026mSv  
10歳:0.0002mSv



検出された放射能がそのまま内部被ばく線量になるわけではありません。  
1ベクレル食べた時の被ばく量は0.000013シーベルトのように計算できます。  
では、今回の松茸の場合、計算して出た数値がどのくらいなのか次のページのグラフで見てみましょう。自然界から受ける年間被ばく線量の約1/10000程度です。

# 身の回りの放射線

# 被ばく線量の比較（早見図）



出典：  
 ・国連科学委員会（UNSCERA）2008年報告書  
 ・国際放射線防護委員会（ICRP）2007年勧告  
 ・日本放射線技師会医療被ばくガイドライン  
 ・新版 生活環境放射線（国民線量の算定）等により、放射線医学総合研究所が作成（2013年5月）

「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成28年度版 ver.2017001」一部改編

mSv：ミリシーベルト

グラフを見ると歯医者レントゲン撮影1回（0.01 ミリシーベルト）よりも低いのがわかりますね。では、参加した方の意見を聞いてみましょう。



研修に参加をして改めて対応の確認ができました。これからも研修会に参加していきたいです。

今回参加できて大変良かったです。いつも行っていることの確認もでき、自分でも知らない所もあり、先生のお話を聞いて良かったです。



菊地先生ありがとうございました。

# 食品のモニタリング結果総括表

## (平成 29 年 11 月実施分)



【基準値】：一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	6	6	0	
根菜・芋類	14	14	0	
山菜・きのこ	2	1	1	きのこ
果物	12	12	0	
穀類	3	3	0	
種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	1	1	0	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	1	0	1	ヤマドリ
総検査数	39	37	2	

食品モニタリング結果の詳細については、食品分析検査センター(公民館内)と放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	放射能簡易分析検査センター(公民館1階)
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30分まで

## 広野町各地区の放射線量

平成 29 年 12 月 12 日 8 時 10 分現在(天候：晴れ)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率(μSv/h)	測定箇所	放射線量率(μSv/h)
広野小・中学校	0.09	広野町役場	0.11
広洋台地区集会所	0.10	高速バス利用者駐車場	0.15
ニツ沼公園 <sup>注2</sup>	0.09	上田郷橋付近 <sup>注1</sup>	0.13
長畑地区集会所	0.13	北沢複合交差点	0.13
小滝平浄水場 <sup>注2</sup>	0.09	県道広野～小高線沿	0.14
ふたば未来学園高等学校	0.08	仮置場	0.12

注1 平成 29 年 3 月設置

注2 ニツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地では n Gy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、μSv/h(マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

# 放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

## 想像する心と科学の目

福島県立医科大学 放射線物理化学講座教授 石川 徹夫

想像力はある種の動物にもあるそうですが、人間を人間らしくしている能力の一つと言えるのではないかと思います。目の前で他人が痛そうな表情をしているのを見て、その人の痛みを想像できる、自分の五感で感じるができないものを想像できるというのは、人間だからこそと言えましょう。しかし、想像力が過ぎると時として幻想になります。私も夜遅く帰ってくる途中で、風に揺れる木立が人影に見えてドキッとした経験があります。「幽霊の正体見たり、枯れ尾花（枯れたススキのこと）」ということわざです。

放射線は目に見えませんが、感じることもできません。人間の五感で捉えることができないために、人はいろいろと想像してしまいます。もしかしたら、政府や自治体の情報よりずっと放射線に被ばくしているのではないか、そのため将来がんになるのではないか、子供に影響があるのではないか、などなど。確かに見えないという不安から想像を張り巡らしてしまうのも無理はないかもしれません。

しかし我々には想像力があるのと同時に、科学という力も持っています。我々が科学技術の発達とともに手に入れた文明の利器を使えば、人間の五感に捉えられないものでも見たり、測定したりすることもできます。冒頭の「枯れ尾花」であっても、夜でも見える暗視スコープや強力なライトを使えば、遠くからでも正体を見極めることができるでしょう。

目に見えない放射線でも、科学の力を使えば正体を見極めることができます。今の科学で放射線のことを全てわかっているわけではないですが、身の回りの放射線の量やそれがどの程度の影響を与えるのかなどについてはおよそ把握できていると言って良いと思います。放射線に関して、あれこれと想像を張り巡らすよりも、この「放射線相談室だより」のほか町が発信する科学的な情報をもとに放射線を理解していただけたらと思っています。



発行者 広野町放射線相談室 080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係 0240-27-2113